・郷土の出版紹介

ふるさとの文化財　うめまち

宇目町教育委員会
宇目町文化財調査委員会編集
B5判　六五頁

本書は、佐伯史談会に於ける石造文化財研究の第一人者、写真技術はプロ級の軸丸勇氏を委員長とする宇目町文化財調査委員会の編集であるだけに、すばらしい出来ばえである。

国・県・町指定、その他の文化財の四部門に分類し、すべて写真入りで、しかも解説は通り一辺のものではなく、石造文化財に対する入門的な解説を入れ、初心者にも理解できるように配慮されている。附編には説明文中に記載できなかった資料や、読解の手助けとなる参考事項を補充している。宇目町は文化財の宝庫であるだけに、本書の発行は意義深い。

他町村にも、このような書物が刊行されると有難い。

尚この本と前後して、宇目町の『口説集』（B六判　七四頁）も刊行された。

（塩月）

表紙写真について

羽柴　弘

今号の表紙写真は、佐伯市堅田の西野の村外れに近い「お塔さん」。かってはここに「西野の大杉」といって、虚空に高々とそびえ、一木よく大森林の趣きをなしていたが、五〇年程前に台風で倒れた。その小枝を今は亡き疋田会員が挿したのがうまく活着し、昔日の姿に近づいている。

「お塔さん」と敬称される数種の古塔のうち、中央部に悲運の栂牟礼城主、佐伯薩摩守惟治とその子千代鶴の墓があり、千代鶴御曹子自刃の哀話の地も近く、四五〇年の歴史を今だに物語っている。

これに並んで数基の庚申塔・一字一石塔・大杉の記念塔・八体地蔵塔などがあり、民俗生活と信仰の密着している古跡である。なかんずく惟治・千代鶴の墓は、宝暦十三年（一七六三）の改修になるものであるが、当地方とのゆかりも深く、その哀話は長く子女の紅涙をしぼらせたもので、今もたずね求めて杖を曳く人が多い。